

事故から45年

北陸トンネル列車火災事故

1972年11月6日未明、北陸本線・北陸トンネルを走行していた「急行きたぐに号」で列車火災が発生し、死者30名、負傷者714名を出す大惨事となりました。

事故発生から45年を迎えた今日、痛ましい事故の教訓を学ぶことが重要です。そして、現在の車掌の乗務体制や乗務員の訓練などを検証し、列車火災対策に活かしていくことが必要です！

異常時運転取扱手引（車掌編） ※一部抜粋

列車火災の発生については、車掌が発見する場合、旅客より一報を受ける場合、運転士が発見する場合があるが、火災の発生については、寝台車、食堂車及びデッキのゴミ箱付近が特に要注意であり、車掌の車内巡回を重点的に実施することが大切である。長大トンネルに進入する前の寝台列車などの車内巡回は特に入念に行うこと。

一番大切なのは「列車火災」という重大事故を未然に防ぐことである。

車掌の役割を明確にして 乗務体制を確立しよう！